

令和4（2022）年3月市長定例記者会見の概要と質疑応答

令和4（2022）年3月1日（火曜日）
午前11時～午後0時1分
柏崎市役所4-3・4-4会議室

1 発表事項

(1) 新型コロナワクチンの小児接種が始まります

（主管：健康推進課）

5歳から11歳の接種が、3月7日から始まります。対象者は約4,200人で、接種会場は小児科医の村井こどもクリニック、柏崎総合医療センター、元気館の3カ所です。柏崎総合医療センターと元気館は刈羽村のお子さんも受け入れます。現在11歳で、誕生月が4月の方の予約を2月28日から開始しました。5月の方は3月2日から、6月以降の方は3月5日から、5歳から10歳までの方は3月6日から予約を開始します。接種は、村井こどもクリニックで3月7日から、元気館で3月13日から、総合医療センターで3月14日から開始します。使うワクチンはファイザー社製の小児ワクチンです。昨日から予約を開始した対象者47人のうち、すでに28人、59.6パーセントの方が予約済みです。

18歳以上の方の3回目接種状況をお知らせします。2月27日時点で、65歳以上の対象者27,720人のうち、接種済みの方が8,853人、31.9パーセントです。65歳以上で3回目接種を希望される方の接種は、3月中におおむね終了する予定です。

18歳から64歳の対象者約42,000人の方々は、順次接種を進めています。接種済みは約3,700人、9パーセントほどです。また、高校3年生で8月、9月に接種された618人の方のうち、3回目接種を予約済みの方は416人、67.3パーセントです。加えて、保育士、児童クラブ支援員、介護関係者、タクシー運転手、警察関係などの方は優先接種とさせていただいています。

併せて、建設業の方々を含めた柏崎版の職域接種を3月5日から開始します。これは3回目接種で、対象は約3,400人です。

(2) 市と柏崎商工会議所などが共に人材確保に取り組みます

（主管：産業振興部）

今いろいろな業界で、コロナの影響を含めて、人材確保に非常に難渋しているという声を聞いています。特に今回は、建設・建築業関係からの声を伺い、私共も柏崎商工会議所と連携しながらなんとか人材確保したいと手を携えているところでです。

本日は、柏崎商工会議所の総合建設部会と一般建設部会の会長からお越しいただきましたので、それぞれお話を賜ります。

総合建設部会部会長 株式会社阿部建設 阿部尚義代表取締役：私共は建設関係の皆さんと一緒に自助努力してきました。私共 45 社ほどいるのですが、1 社も欠けることのないように産業を支えていこうという志の下、このような経済情勢の中でも生命と財産を守っている産業だと自負しています。このような気持ちの中で、自分たちのお金を出し合って、4 年ほど前に今皆さんにお配りしたカードを作り、動画も製作しています。市からもご理解いただき、採用関係の予算を付けていただいて、ホームページや情報誌作成の補助をしていただきました。柏崎市に人材を呼び込もう、人材が流失しないようにしていこうと取り組んでいるところです。

大都市にばかり人が集まってしまっているのが実情だろうと思います。日本全国、地方の中小零細のまちや自治体があると思いますが、こういうまちはこういうまちなりにいろいろな方から力をいただいて、情報発信しながら地方都市が生き残る自助努力をしていきたいと思っています。

一般建設部会部会長 有限会社池田工務店 池田民樹代表取締役：今ほど市長や総合建設部会の阿部会長が言われたとおり、私たち建設業界は人材確保などに難儀をしています。それと共に、コロナ禍での資材の高騰、または資材が調達できずお客さまにご迷惑をお掛けしているような状況です。早くコロナが終息してほしいと願っています。

柏崎の職人がどんな仕事をしているのか、人材確保なども含めながら、いつもなら市民の皆さんから集まっていたら、企画をしながら一緒に職人の技などを見ていただいています。コロナ禍でなかなかそういうイベントもできませんので、ウェブで柏崎の職人がどんなことをしているのかという放送を始めました。これからいろいろな職種の職人に参加していただければと思いますが、柏崎には元気もありますので、行政からもお力添えをいただきながら、建築業界もますます発展していければと思っています。新年度も快適リフォーム事業

というかたちで、柏崎市は他の市町村より多い額の補助金が出ますので、好評です。これらや人材確保などを含めながら、これから邁進していきたいと思えます。

(3)「冬の米山（五輪山）からの贈り物」—柏崎産米、農産品特産品を限定販売

(主管：農政課)

昔から米山のことを五輪山と呼ぶというところもありますが、冬の米山、五輪山からの贈り物ということで、米山プリンセスに加えて農産加工品を限定販売させていただきます。JA柏崎、北条商工会、高柳商工会、西山町商工会協力の柏崎農産品推奨実行委員会が販売します。今回は「にいがたの名工」で杜氏の平野さんが原料を柏崎産にこだわって作ったあまぎけはまたろうもセットに入っています。アルコールが入った春の夢セットが200セット、ノンアルコールの春祭りセットが50セット、合わせて250セット販売します。販売価格は送料込みで3,000円です。通常価格のほぼ半額ですので、これを機会に多くの方から米山プリンセス、西山コシヒカリビール、こしいぶきの網代焼、石塚酒造のかめぐち酒、高柳のふふ豆、あまぎけはまたろうなどをご賞味いただきたいと考えています。

(4) 春の訪れを見タイ！食べタイ！感じタイ！—1日限定「桜姫弁当」

(主管：商業観光課)

県内でもトップクラスのタイの水揚げ量を誇る柏崎市ですが、春先が一番おいしいと言われている旬の桜鯛と米山プリンセスをコラボレーションした桜姫弁当を鮮魚商組合の方々のお力添えを得て販売します。3月27日に大崎雪割草の里のセンターハウス内で販売します。大崎雪割草の里で雪割草を見ていただきながら、この桜姫弁当をお買い上げいただければありがたいと思っています。本来であれば、この大崎雪割草の里では雪割草まつりが開催されているところですが、コロナ禍で残念ながら中止になりました。同じく西山町地内の伊毛という地域にはツバキがあります。高内山のカタクリはちょうど見頃です。西山町地内の雪割草、ツバキ、カタクリと花めぐりしていただきながら、このお弁当をお楽しみいただければと思っています。

大崎雪割草の里は3月5日から開園します。入園料は大人400円、子どもは小学生以下が無料です。広報かしわざきの3月号で西山地区の花も含めていろいろなスポットを紹介しますので、このお弁当を持ってドライブしていただければありがたいと思っています。

(5) 3年連続！本市職員がi-都市交流会議で優秀賞を受賞

(主管：都市計画課)

今回受賞したのは都市整備部都市計画課主事の新沢凜です。3年連続で本市職員が優秀賞を取っています。新沢から今回受賞した発表の説明をしてもらいます。

都市整備部都市計画課主事 新沢凜：昨年9月9日から内閣府主催の都市構造可視化研修に参加し、町の形状や課題を三次元でGoogle Earthの地図上で表示する技術、都市構造可視化を学びました。そして、2月11日から18日にWeb上で開催されたi-都市交流会議2022に参加し、参加自治体34人の中から3人の優秀賞に選ばれました。そこで発表した内容を抜粋して、スクリーンを使って概要を説明します。

タイトルは「私たちは“まち医者” まちを的確に診断し、市民と一緒に暮らし続けられるまちを目指します！」で、都市計画に関わる人をまちの医者に例えました。まちの診断には都市構造の可視化が有効です。こちらの図は、都市構造可視化を使ってGoogle Earth上に書き出した柏崎の三次元の町です。当市税務課が管理している税務情報から、建物の特性を持った三次元の町が出来上がります。税務情報では建物の用途、階数、構造種別、建物の形などがあります。このように、建物の色が住宅や工場などの用途を表し、一目でどのようなまちか分かるようになります。

また、将来の担い手の育成として鏡が沖中学校から地域学習の授業の依頼を受けた際に、この都市構造可視化を使って柏崎のまちを知る授業を行いました。昔の航空写真と今の航空写真を見比べたり、二次元ではなく三次元で人口の経年変化を表現したりしました。子どもたちも自分の住んでいる場所や学校が地図で分かるので、より興味を持って話を聞きました。新潟工科大学の2年生にも、令和2(2020)年度から継続して行っている都市計画演習の授業を行いました。市外から入学した生徒も多いので、自分のまちがどういうまちなのか、iPadを使って都市構造可視化を自分たちで使いこなせるような授業を行い、最後に自分のまちの特徴や課題について発表してもらいました。今年度からは3年生にも授業を行いました。3年生は都市構造可視化のスキルを昨年身に付けているので、その応用編ということで、柏崎の防災まち作りをグループワークで考えてもらい、3班に分かれて発表してもらいました。学生たちの授業や市民の方々と現場でこの技術を使ったことや、まだ馴染みのない都市構造可視化という技術をどのように使えば有効なのか、具体的な活用方法を他の自治体に先立って発表したことが今回評価していただいた点だと思います。

市長:3年連続でこのような賞を受賞することは、柏崎市にとっても非常に名誉なことです。

(6) 広報かしわざきを横書き・左開きにリニューアル

(主管：元気発信課)

広報かしわざきは、いろいろなりニューアルを重ねてきました。柏崎市の広報第1号は昭和28(1953)年に発行されました。当時の市長は洲崎義郎さん、編集発行者は月橋たかしさんです。月橋たかしさんは柏崎の水道の管理者であり、柏崎の水道をここまで発展された、柏崎の水瓶であるところの谷根ダム、赤岩ダムを作られた中興の祖のお一人です。この広報第1号から70年余り経って、皆さんのニーズ、見やすさを考えると、数字やアルファベットが並べられることも多くなってきましたので、横書き、左開きのスタイルにリニューアルします。横書きの誌面イメージは資料のとおりです。

(7) 大好評の「柏崎の花-Spring Collection-」を動画で堪能!

(主管：図書館)

「柏崎の花-Spring Collection-」が2月11日から23日まで行われました。入場者数は2,100人を超え、市展を遥かに超える入場者数となりました。改めて芸術の力、皆さんが持ち寄ったアートの実感しました。会場に行けなかったという声もいただきましたので、展示の概要を撮影し、YouTubeの公式チャンネルで公開します。3月10日から公開しますので、雰囲気や少しの間味わっていただければと思います。

2 質疑応答

◎新型コロナワクチンに関する質問

記者：小児へのワクチン接種について、市長から保護者とお子さんへ呼び掛けなどがあれば伺いたい。

市長：お子さんへの新型コロナワクチン接種は、国では努力義務を適用していません。保護者の皆さんがお子さんとどこまで相談していただけるか、なかなか難しいところかもしれませんが、いろいろな情報をご勘案いただき、決めていただきたいと思います。私共としては国・県、小児科の先生方からアドバイスをいただきながら、受けていただける方には安心して受けられるように体制を整えたつもりです。

オミクロン株の影響なのか、お子さんの感染事例が非常に多くなってきていますので、いろいろな方々のお話をよく聞いていただき、ワクチン接種を希望される方はお受けいただきたいと思っています。

記者：接種日程は、5歳から10歳も11歳と同じように誕生日ごとに区切って順次接種券を発送していくということでしょうか。

市長：5歳から10歳に関しては、区切らず3月6日以降です。

記者：ワクチンを接種する子としない子によって、非難や差別が起こり得ると思うが、その辺に関して注意喚起するような考えはあるか。

市長：ワクチン接種の案内をする際に、いろいろな意見があるということ、努力義務ではないということは明示していますので、さらにそれに対応するということはありません。

記者：安心して受けられる体制というのは、具体的にどのようなものか。また、当日の接種の流れを伺いたい。

市長：なかなか小児科の先生が確保できないという他自治体の話も伺っていますが、私共は村井こどもクリニック、医療センター、元気館、それぞれに小児科の先生方が携わっていただきますので、安心して受けていただける体制を整えていると考えています。

元気館も午前、午後で多くの方々を対応させていただきますが、基本的には小児科の先生が個別接種する形です。小児科の先生方が一人一人をしっかり見定めて、受けていいのかどうかを含めて対応します。村井こどもクリニックは個人院ですので、より細かい対応もしていただけるだろうと思いますし、総合医療センターも小児科医の先生から対応していただけるということです。

接種の流れは受ける場所によっても違いますので、個別でご確認いただければと思っています。

◎新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置に関する質問

記者：新潟県に適用されているまん延防止等重点措置の期限は3月6日となっている。県は各自治体の意向などを聞いた上で判断するという姿勢のようだが、期間を延長すべきかどうか、柏崎市としてすでに県に何か意見を伝えたのか。

市長：非公式ではありますが、県の担当者からその旨を伺い、どのように思うかという話がありましたので、延長せず3月6日で終わりにすることに賛成すると伝えました。しかし、柏崎市内の障がい者施設でクラスターが発生したという事例もありますので、いまだ予断を許さない状況であることも事実です。また県からいろいろな意見聴取の機会があると思いますので、そういったことは申し添えておきたいと考えています。

記者：延長しなくてもいいと判断された理由を伺いたい。

市長：徐々にではありますが、発生件数が落ち着いてきたのではないかと考えています。今ほど申し上げた施設のクラスターもありましたが、基本的な大きな流れとしては落ち着きつつあるのではないかと判断しているということが理由です。

記者：市として今後必要な対策は、市長としてどのように考えているか。

市長：引き続き、市職員と一緒に感染された方に対して誠心誠意対応し、防止のために市民の皆さまに重ねて呼び掛けさせていただくことだろうと思います。小児ワクチンに関してもいろいろな評価、考えがありますが、基本的には国・県・市、医師会、小児科の先生方もワクチン接種の有効性を認めていらっしゃいます。そういった部分で、ワクチン接種を進めていくということも私共行政の仕事ではないかと考えています。

◎原発 6 号機大物搬入建屋の杭の損傷に関する質問

記者：先般、東京電力が 6 号機の大物搬入建屋の杭の損傷について調査結果を所長会見の場で発表したが、市に説明などの対応はあったのか。

市長：正確な日程を覚えていませんが、2 月 20 日か 21 日に担当者を通して、報道機関にこのように発表しますという連絡がありました。担当者を通して資料を見せてもらったのですが、直接説明を聞きたいということで 22 日に所長はじめ担当者に市役所にお越しいただいて説明してもらいました。

記者：東電側の説明に対する市長の受け止めと、所長とのやり取りの中で伝えたことなどがあれば伺いたい。

市長：今回は 6 号機の大物搬入建屋を支える杭の損傷でした。最初に申し上げたのは、地下に残されていた残置物というのでしょうか、コンクリートの部分がなぜ把握できていなかったのかということ。もしこのような残置物なるものがここだけではなかったとするならば、サイト内のどこに残っているのか把握してあるのかどうかということ。もし把握してなかったとするならば、全サイト内でその位置を把握してもらいたい、そして報告してもらいたいという話をしました。そして、6 号機の大物搬入建屋の隣には地上式のフィルターベントの施設があるはずですが。図面によるとそこにも一部かかっているように思われたので、大物搬入建屋も大事な施設かもしれませんが、フィルターベントは桁違いに重要性が高いので、それが同じような杭構造なのかどうか。もし杭構造であったとするならば、その影響がないのかどうかも含めて確認してもらいたいということを話しました。私はもちろん素人です

が、杭があつて地下にこのように固いものがあつたとすると、今の場合はこの固いものの中に杭が入っていた、だから地震の大きな衝動によって固定された部分に無理な力がかかつて鉄骨が曲がったり破損したりしていた、もしくは端にあつて無理な力がかかつてしまった、その部分に入っていなかったり当たっていなかったりしたとしても、反対側から強い力がかかれば力の逃げる範囲が狭いので、当たってない杭も影響を受けるのではないかというも話しました。

いずれにしても、フィルターベント施設を含めて、地下に残されている残置物なるものが、原子力発電所の安全性を確保するに重要な役割を果たしている施設にその杭構造のものがあつたとして、それに影響を与えてないかどうか、その前提として地下の残置物がどこにあるのか把握するということをしてもらいたいと申し上げたところです。

記者：今回の事例では、地下に残置物を残した企業、その後杭を打った企業がどちらも東電に報告していなかったということで、いわゆる発注者としての東電の管理責任も報告では言及があつた。以前の消火配管の溶接のときも必要な手順を踏まなかったという協力企業の経過があり、改めて東電の発注者としての責任と施工管理について求めたいことなどがあれば伺いたい。

市長：今回の残置物は、結果的に6号機を建てるときの大型のクレーンを設置するために使われたものでした。ということになると、すでに30年以上前の話であることは間違いありません。その当時の東京電力と施工業者とでどのような取り決め、約束事があつたのかは承知していませんが、いずれにせよ30年、40年近く経つてこのようなことがあり、東京電力もそれを把握してなかつたということは、発注者の責任が問われる事態でもあると思つています。30年、40年近く前のことであることを情状酌量したとしても、現代においては、それはなかなか通用することではないと思つています。

過去ばかり言つても仕方がないので、今私が求めることは、サイト内にある残置物の存在を速やかに確認してもらふ、そしてその残置物が原子力発電所の安全性を確保するに重要な役割を果たしている構造物に影響を与えてないかどうかを確認すること、もし影響があつたとするならば、速やかにそれを是正してもらいたい、それが発注者たる東京電力の主体性ある対応だろうと思つています。

記者：東電の会見で、中越沖地震の揺れが影響したと推定されるという言及もあったが、それについてどのように受け止めたか。

市長：それは私も素人ながらそのように考えていると1月ごろに申し上げたところですので、私自身はもちろん素人ですし、数字を見ているわけではありませんし、科学的な解析を行っているわけではありませんが、単純に過去20年の中で、それほど大きい物理的な力が地下に及んだという事例は中越沖地震だろうと考えていますので、中越沖地震の影響だろうという東電の見解も妥当だと考えています。

◎施政方針での東電への見解に関する質問

記者：先日、議会で新年度の施政方針を示されたが、1年前の施政方針では、今回の東電の問題については誰もが納得できる取り組み、覚悟が必要だということで、東電に対して再発防止、原因の分析、開示、責任の明確化などについて話された。今回の施政方針では、東電が自ら掘ったこの深く大きな穴が墓穴とならないよう決然たる行動を求めるという内容で、言葉自体がかなりきつくなっているという印象を受けた。この1年間の東京電力の対応を踏まえてどのような思いで今回の施政方針を書かれたのか改めて伺いたい。

市長：自ら掘ったこの深く大きな穴が墓穴とならぬようという部分は、もちろん私自身で書いた言葉ですが、事務方に回ったときは一旦消されて戻ってきました。私が改めてこの言葉は生かすということでそのままにしました。おととしの市長選挙のときは、凶らずも原発再稼働が争点の一部となって市長職を拝命しましたが、その後12月にIDカードの問題が出て、1月にさらに核物質防護違反的なものが出てきて、規制庁の特別検査が始まりました。本来、再稼働が決定されて再稼働していてもおかしくありません。もう一方で、新潟県の3つの検証もなかなか合理的な進捗がなく停滞していますが、徒労感というのか、これは柏崎市長だけではなく経済界の方々も、おととしには東京商工会議所の会頭にお越しいただいて、再稼働の意義を盛り立てていこうという活動をされたにもかかわらず、それが実現することもなく、再稼働そのものが結果的に、東電の言葉をそのまま使えばリセットされたというかたちになっているわけです。東電自身もそれなりの覚悟を持っていると思いますが、私はあえて言います。その強い言葉そのままに捉えていただきたい、そのように東京電力、東京電力が

行おうとしている再稼働に関して捉えていると認識いただきたいと思います。

◎ブルボン KZ の志水祐介選手の引退に関する質問

記者：水球の日本代表キャプテンを務めた志水さんが引退ということになり、柏崎市にも多大な貢献をした方なので、市長から志水さんへメッセージをお願いしたい。また、市として表彰などは考えているか。

市長：後段の部分、表彰などはまだこれから考えなければいけないところです。前段の部分は、もちろんブルボン KZ の代表選手でありましたし、日本のキャプテンでもありました。日本代表チームのキャプテンを務めた方が、この柏崎の地で小学生、中学生、高校生を含めて直接指導していただいた功績というのは、非常に大きなものがあると考えています。大きなケガをしても、ケガを治して復帰されて、今回の東京オリンピックに臨まれたその姿勢は、私たちが学ぶべきところが大きいと思っていますし、その姿を見た柏崎の小学生、中学生、高校生は大きなものを多く学んだと思っています。私共としてもどういったかたちで志水選手の功績に応えられるか、十分検討させていただきたいと考えています。